東海村発足60周年記念スペシャル！

イモゾーファミリーと振り返る 東海村60年のあゆみ

【主な出来事（平成7～11年）】

平成7年（1995年）

2月
▼「東海村発足40周年記念誌」発行
▼東海村発足40周年記念式典開催
▼村の鳥に「メジロ」制定
○記念事業として木内克制作のブロンズ像「エーゲ海に捧ぐ」設置

6月
▼東海村公園墓地「須和間霊園」分譲開始

10月
○第1回東海Ⅰ～MOのまつり開催

11月
○第2回木内克大賞野外彫刻展開催

平成8年（1996年）

3月
▼東海村行政改革大綱策定

4月
▼デイサービスセンター東海と東海村在宅介護支援センターがオープン
▼最終処分場供用開始
○東海中学校体育館が完成

10月
▽原子力40周年記念式典開催

12月
▼行政機構改革で部制を導入

平成9年（1997年）

3月
▼東海村勢要覧「ゆうゆう東海」発行
▼東海村役場新庁舎完成
▽動燃東海事業所のアスファルト固化施設で火災・爆発事故発生
▼東海村とひたちなか市の海上境界線決定
▼地域防災系無線施設整備

5月
▼故川﨑義彦さん（元村長）、故根本時之介さん（元村長）に名誉村民の称号

7月
▼東海村福祉循環バス運行開始

12月
○中丸コミュニティセンターオープン

▶第1回東海Ⅰ～MOのまつり（平成7年）

◀東海中学校体育館が完成（平成8年）

▼最終処分場供用開始（平成8年）

▲役場新庁舎完成（平成9年）

▶原子力40周年記念式典（平成8年）

村発足40周年記念式典（平成7年）

あのころの…「広報とうかい」こんな記事（一部抜粋）

■ふるさと東海 誕生して40年 厳かに記念式典（第598号／平成7年3月10日発行）

【事業の概要】

①ブロンズ像の設置 駅東口広場にブロンズ像「エーゲ海に捧ぐ」を設置。東海村にゆかりの深い彫刻家、木内克の作品で、…生涯の作品の中でも、最高傑作の一つに数えられています。

②シンボルツリーの植樹 駅東口広場にシンボルツリーとしてケヤキを植樹。

③村旗の制定 昭和38年に東海村の紋章が制定され、…使用されてきました。40周年の節目を迎え、今回新たに村旗としての規格化を行い、…村旗を制定しました。

④村鳥「メジロ」の制定 メジロは、目の周囲に白い輪があり、体の上面は緑黄色。村内に広く生息し、昔から地域の人々に親しまれてきたことから、村を象徴するにふさわしい鳥ということで決定しました。これで、村の木（黒松）、花（スカシユリ）、鳥（メジロ）と、村を象徴する3つのものが出そろったことになります。

⑤道路9路線の愛称決定 皆さんから応募いただいた愛称を審査した結果、

平成10年（1998年）

2月 ○アートロード10周年記念展開催

3月 ▼東海村消防署に消防緊急通信指令施設整備
▽原電・東海発電所が営業運転停止

4月 ▽行政機構改革で原子力対策課新設
○百塚保育所リニューアル

5月 ○第3回木内克大賞野外彫刻展開催

9月 ○舟石川コミュニティセンターオープン

10月 ▽動力炉・核燃料開発事業団が改組し、核燃料サイクル開発機構発足
○笠松運動公園ほかで、「ゆうあいピック茨城大会」（第7回全国知的障害者スポーツ大会）開催

12月 ▼常陸那珂港南線開通
▼常陸那珂火力発電所東京電力1号機着工

平成11年（1999年）

2月 ▽核燃料サイクル開発機構本社が村内へ移転

3月 ▼国道6号「榊橋」架け替え供用開始
▼固定系防災無線施設整備
▼東海村勢要覧「ゆうゆう東海」（改訂版）発行

5月 ▼常陸那珂港北ふ頭に定期航路開設

6月 ▼都市計画道路「遠間庚塚線」開通

9月 ▽株式会社ジェー・シー・オー東海事業所で国内初の臨界事故発生

▼…暮らし ○…教育・文化 ▽…原子力

▶東海村福祉循環バス運行開始（平成9年）

◀百塚保育所リニューアル（平成10年）

▼「ゆうあいピック茨城大会」（平成10年）

▲核燃料サイクル開発機構本社が村内へ移転（平成11年）

▶臨界事故が発生した株式会社ジェー・シー・オー東海事業所（平成11年）

…▽原電通り▽原研通り▽駅西大通り▽駅東大通り▽動燃通り▽かえで通り▽もみじ通り▽はなみずき通り▽いちょう通り――など）愛称が決定しました。東西に走る道路は事業所名、南北に走る道路は、街路樹名を冠したものとなっています。

⑥東海村役場新庁舎建設事業 …基本設計は平成6年9月にまとまり、現在は建設に向けての準備が順調に進められています。完成は平成8年度末に予定…、平成9年度早々には使用開始となります。

【東海村の名のおこり】

村松村と石神村とが合併する8年前の昭和22年、「学校教育法」が施行され、各自治体では中学校を設置する必要に迫られました。しかし、各自治体とも、戦後の飢餓状態と物資不足の中、自力で中学校を設立することは困難でした。村松・石神両村の間では、早い時期から組合立という形で、合同で中学校を建設しようとする計画が進んでおり、昭和23年4月1日に「東海中学校」として発足しました。この「東海」という校名は、幕末の思想家、藤田東湖の「正気歌」の中の「卓立す東海の浜」に因んで名付けられたと言われています。村松村、石神村では合併するに当たり、一歩先に「合併」していたこの中学校の名前を採って、新しい村の名前を「東海村」としたのです。（東海村史編さん委員会編『村の歴史と群像』から）